



DNW-26020 の概要

課題名：転移開始細胞の再覚醒因子の創薬ターゲットとしての妥当性の検証

主任研究者 (Principal Investigator) :

清水 寛和 (国立大学法人北海道大学 北海道大学病院 医療・ヘルスサイ
エンス研究開発機構)

ステージ： 検証ステージ I

【標的疾患】

転移性トリプルネガティブ乳がん

【創薬標的】

転移開始細胞の再覚醒因子 X

【創薬コンセプト】

転移開始細胞の再覚醒因子 X が転移開始細胞 (MIC) 特異的に発現していることを踏まえ、MIC の生存及び再活性化を制御することで、疾患無増悪期間及び生存期間の延長をもたらす再覚醒因子 X 阻害剤の創製を目指す。

【モダリティの設定】

低分子化合物

【創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス】

以下のことが PI らにより明らかにされている。

- 1) 臨床検体を用いた再覚醒因子 X の発現量解析において、腫瘍組織では正常組織に比して発現量が高く、さらに同一乳癌患者検体解析においても原発巣より転移巣で発現量が高かった。また、原発巣における再覚醒因子 X の発現量と無骨転移生存期間及び全生存期間が相関していることを確認した。
- 2) マウス尾動脈骨転移モデルにおいて潜伏期の MIC を抽出し、発現が上昇している遺伝子群より生存規定因子として再覚醒因子 X を検出した。
- 3) 再覚醒因子 X のノックダウンにより、マウスモデルにおいて腫瘍の生存及び再活性化が低下することを確認した。

【支援ステージにおける目標】

- 1) 再覚醒因子 X を阻害することによる腫瘍増殖抑制効果を検証する。

2) スクリーニングの方向性を明確化する。

【関連特許】

関連出願あり

テーマに関するお問い合わせは下記までお寄せください。

Principal investigator へのお問い合わせはご遠慮くださるようお願いいたします。

(問合せ先)

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 創薬事業部

E-mail : id3desk@amed.go.jp